西郷どんと鹿児島

歴史深堀りストーリー

画：KENRO
本文監修：徳永 和喜（西郷南洲顕彰館）

第1話 西郷の愛した猟犬たち

目的はダイエット!?狩りの意外な理由とは。

多いときには十頭以上の猟犬を飼っていた西郷どんは、健康維持のため狩りに行っていたとか。今回は、西郷どんと犬たちにまつわるお話。

上野公園の西郷像

上野恩賜公園に西郷隆盛像が建てられたのには、大きな意味があります。日本が国際社会の仲間入りをした象徴的な大日本帝国憲法の発布による恩赦によるものです。日本近代化に最も貢献した西郷隆盛を国家的に評価したものといえます。この西郷像は高村光雲、猟犬は後藤貞行、鋳造は岡崎雪声（いずれも東京美術学校教師）の制作によるものです。高村は制作で、西郷の特徴ある唇（何とも言えない魅力と情愛に弱いところが同居している唇）を最後まで表現することに苦しんだと書いています。

ところで、猟犬のモデルは「ツン」と思われていますが、実際は海軍大将仁礼景範の愛犬「サワ」です。サワもツンも、耳が尖り、尾はピンと立つ・左尾の形態的特徴を持ち、狩りでは獲物を逃さないという勇猛果敢さと平生の温順さを合わせもつ薩摩犬でした。

西郷と狩猟、猟犬たち

新政府で持病のため休んだ西郷のために、明治天皇はドイツ人医師ホフマンを派遣し、診察させました。下剤を与え、朝夕散歩することや脂肪の少ない食事を摂ることなどの指示があったようです。

元来狩猟が好きであった西郷にとって、狩猟・ウサギ狩りは健康維持のための手段との意識が高まったことでしょう。狩猟は常に戦場との意識もあり、狩りの準備として近辺の一番高い山に登り、四方をみて、山・川・道・目印を書き込み、必ず絵図面をとったといいます。また、どのような粗末な小屋や食事であろうと全く不平もなく、常に戦場との認識で狩猟をしていました。

そのため、狩場は戦場、猟犬は戦士であり、西郷が猟犬を愛した逸話や伝説は枚挙にいとまがありません。

西郷の愛した猟犬たち

西郷が飼っていた猟犬は十三から十五頭といわれています。その中から西郷の歴史に絡む猟犬を紹介します。

【寅】床次正精が描いた軍服姿の西郷と一緒に描かれている愛犬。オランダ国王が将軍徳川家斉に贈った蘭犬の血統の犬といわれ、当時祇園の名妓君龍は「西郷さんは、犬を引っ張ってお出でになり、犬さんとご一緒に鰻を召し上がればすぐにおかえりになりました」と。しかし、伊作の狩りでは寅は狩猟に適さないことを知り、以後洋犬は避け、薩摩犬をそろえたと言われています。

【ツン】東郷藤川天神・臥龍梅園に建つ像は有名です。このツンは藤川牧野の前田善兵衛の飼い犬で、名猟犬として有名でした。ツンの優秀性を見抜き、馬術仲間の斧淵の三原隼太を介して譲ってもらったのです。ツンは虎毛の左尾の雌犬、体は大きくはありませんでしたが、期待通りの名犬だったといいます。

【攘夷家】この変わった名前の由来は、洋服の人を見ると居丈高になって吠えることによります。黒毛で頸に白の斑点があり、西郷が最も狩場に連れた猟犬といわれ、川辺の中条良正が贈呈したものです。この攘夷家は、西南の役の頃には高齢のため西別府の野屋敷の番犬として過ごし、西郷亡き後の西郷家を見守り、天寿を全うしました。

【黒とカヤ】黒は黒毛の犬、カヤはかや毛の犬での呼称。西南の役の陣中に飼われていた黒毛（佐志郷の押川甚五左衛門）とかや毛（小山田郷の農夫太郎）の二頭の愛犬は、官軍から延岡の可愛岳へ追い詰められた八月十七日の晩、二頭の頭をなでて帰って行けと解き放たれました。黒は九月二十四日城山陥落の前夜、郷里の押川甚五左衛門方に帰って来たといいます。西郷の歴史を支えた犬たちの物語でした。

登場人物

西郷 隆盛
Takamori Saigo

日本一愛される偉人

明治維新を牽引した鹿児島城下出身の薩摩藩士。薩摩藩主島津斉彬に見出され、薩長同盟や江戸城無血開城など、数々の偉業を成し遂げた。座右の銘は「敬天愛人」で、人のために尽くす姿勢から、多くの人に慕われたという。

西郷どんの足跡

ツンの銅像
－薩摩川内市 藤川天神－

東郷町（現薩摩川内市）は、西郷さんが飼っていた愛犬ツンの生まれ故郷。明治維新後、藤川天神に立ち寄った西郷さんは、ウサギ狩りの上手なツンに惚れ込み、愛馬を差し出して譲り受けたという。

アクセス・周辺情報などはこちら P15

明治維新150周年&西郷どん放映！
2018年まで
あと 二四四 日
※2017年5月1日現在

次回「奄美大島での日々」